

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3391000142		
法人名	株式会社 成峰		
事業所名	グループホーム 花すゝき		
所在地	岡山県新見市高尾232-2		
自己評価作成日	令和元年10月12日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利法人 津高生活支援センター		
所在地	岡山市北区松尾209-1		
訪問調査日	令和元年11月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<力を入れている点> ・その人らしい生活の実現に向け、役割を失くことなくいきいき生活できるよう個人にあった作業活動を提供しています。 ・家庭的な雰囲気大切に、野菜の皮むきやおやつ作りなど利用者にも参加して頂き職員と共に取り組みます。 ・利用者の残存機能を活かし、可能な限り自分のことは自分でやっただく「自立支援」に取り組んでいます。 <アピールしたい点> ・住み慣れた地域から切り離さないことに重点を置き、地域との交流行事に力を入れています。 ・共同生活の仲間として認めあえる関係づくりを大切に、利用者は感情を豊かに表現し様々な表情を見せます。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者と職員が一つになり、入居者の自立支援に日々努力しています。皆が集まって過ごす居間兼食堂は、壁に飾られた作品から、作成している様子、話し声、笑い声が聞こえてくる様な温かい雰囲気です。掃除も行き届き清潔な環境の中で入居者と職員の自然な姿がありました。 又、地域との交流は運営推進会議の他にも定期的な「夕涼み会」や「カフェ」を通して行っており、隣接するグループホーム「花みずき」と連携しながら取り組み地域密着型施設として確実にステップアップされている事業所です。災害対策面においても地域の避難所としての役割も果たされています

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	認知症カフェや、夕涼み会など地域との交流行事には職員も積極的に参加し、地域に根差した事業所づくりに努めています。また、その人らしい暮らしの実現に向け、ミーティングを通して個別ケアについての意見交換を毎月行っています。	管理者が新しくなり職員と共に理念を理解し運営に反映すべく試行錯誤していました。月1回開催される職員会議でも 毎回理念に関して話し合い職員間で理解を深める努力がされています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	花見などの地域行事への参加や夕涼み会を通して地域との交流を積極的に行っています。また、地域の方もホームの避難訓練に参加して頂き、災害時に備えた連携を図っています。	地域との交流は運営推進会議も含め「夕涼み会」や「カフェ」も行っています。ボランティアの方の来所もあり地域との交流に努力をしています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月花みずきで開催される認知症カフェを通して地域住民や家族に「対して認知症ケアについての理解を深めています。また、医師会等の主催する研修会への積極的な参加を心がけています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	偶数月に開催される運営推進会議を通して、ホームの運営や日頃のケアについて助言を頂き、現場の職員に伝達することで実践に結びつけています。	行政 社協 地域 家族と多くの方が参加られ意見・要望など中身ある話し合いがされておりサービスの向上に活かしています。	外部の参加者は多いようですが、事業内の管理者以外の職員の参加することにより、地域密着型サービスの意義とサービス向上につながると思われます。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂く、行政の担当者からホームの運営についての助言を頂き、疑問点についてはこちらから相談することで問題解決に至っています。また、市内で開催される連絡会議に出席することで情報交換を行っています。	それほど大きな市ではないので、行政とも顔見知りの関係が構築されています。連絡協議会にも参加され情報収集にも努めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3ヶ月に1度は身体拘束廃止委員会を開催し、センサーマットや人感センサーの使用目的等を再確認するなど身体拘束ゼロの事業所づくりに職員一丸となって取り組んでいます。	外部研修で得た情報をもとに、内部の勉強会を開催して具体的にどのようなことが身体拘束に繋がっていくのか話し合いながら、日々の支援に活かす様努めています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法についての内部研修を行い、日頃のケアを振り返る機会を持っています。また、職員全員が虐待防止への意識が高まるようミーティングでも虐待防止について話し合いの場を持っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、対象者はいませんが制度の理解を深めるため、外部研修等の積極的な受講を勧めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際にはグループホームの趣旨をご理解頂くよう努めています。また、入居時には運営規定及び重要事項説明書見基づいて説明を行い、不明点については必ず確認をしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者に対してはモニタリングを通じてニーズの聞き取りを行い、ケアプランに反映しています。家族へは面会時や電話連絡により要望等の聞き取りを行っています。また、玄関に意見箱を設置し、ケアの質の向上に努めています。	入居者の日々の様子を伝え、家族からの意見を頂けるような関係づくりに力を入反映に努めています。入居者の情報を職員全員が共有し家族がどの職員に聞いても応えられるようにしています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回行う各ユニット内のミーティングで意見交換の場を設けています。その中で得られた事は必要に応じ代表者と管理者で意見交換を行い、必要な改善を図っています。	気づきや要望等、日常的に話し合いながら、管理者が気配り、思いやりを大切にして職員との信頼関係を築いています。その信頼関係の上立った意見が運営に反映されています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員のモチベーションアップのため、職員に対しては積極的な研修への参加を勧めています。賃金改善については年に3回処遇改善加算を支給しています。また、必要に応じて職員個人との面談の場を設けています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各ユニットにおいて年間の研修計画に基づいて内部研修を実施しています。資格取得や研修への参加を積極的に進め、そこで学んだ知識をホームへ持ち帰り内部研修という形で職員の知識を深めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内外の研修会、及び地域密着型サービス連絡協議会等への積極的な参加を促し、各施設間でのネットワークづくりや情報交換を通して当ホームのケアに反映する働きかけを行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	当ホームへの入居が決定したら、本人及びご家族との事前面接を行い心身の状況や生活状況等の聞き取りを行い入居後のケア方針を検討を行っている。また、その内容は他の職員へも周知し、ケアの統一を図っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	上記同様にご家族からも聞き取りを行い、ご本人に対するご家族の思いやホームへ対する希望やニーズの把握を行い、ご家族も不安なく当ホームを利用して頂けるよう家族支援を行っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人及びご家族から得られたニーズやご本人の現在の状況を総合的に評価し、ご家族と共に支援について検討しています。また、その内容は介護計画書に記載しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者、職員共に生活の場と捉え個人の生活パターンや個人のペースに合わせてホームでの暮らしを共にしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時にはプライバシーに配慮し、気兼ねなくゆっくり過ごして頂けるよう配慮しています。また、行事にご家族を招待し、季節の行事を共に楽しんでいただけるよう取り組んでいます。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	定期的に外出ができるようご家族にも協力して頂き、外出支援を行っています。また、地域で開催されるひな祭りなどへ出かけ、慣れ親しんだ地域との繋がりを大切にできるよう努めています。	入居者と目線を合わせ、しっかりと向き合って話を聞いています。家族の面会時には入居者の普段の様子を話しながら今までの事を伺い、出来るだけ以前の暮らしに添った支援、で馴染みの生活環境の継続に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性に配慮しながら、テーブルの位置を変更したりソファを利用しながら、利用者同士でコミュニケーションが図れるよう配慮しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了したケースに対しては、電話連絡を通してその後のご本人やご家族の状況を把握し、必要に応じて相談にのっています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者ひとりひとりとゆっくり向き合う時間を大切にしています。ご家族に対しては面会時に聞き取りを行い、ご本人の思いを汲み取りながら日々の関りの中で声掛けを行っています。	これまでの生活歴を参考にし、契約の時に意向を聞き出すよう心掛けています。又、受診時には1対1になる貴重な時間と捉え、ゆっくりと本人の思いを聴くよう努めています。職員間で情報を共有し支援に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご本人及びご家族から聞き取りを行い、そこから得られた情報を整理し、ホームでのケアに活かせるよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ひとりひとりの生活リズムを把握し、その人にあった就寝時間、起床時間、入浴時間及び休息の取り方を職員で検討し、ケアに活かしています。また、できることは可能な限り自分でして頂けるよう自立支援を行っています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族のニーズをプランに反映させミーティングでプランの検討を行い、意見交換を行っています。医療ニーズの高い利用者に対しては直接かかりつけ医に相談するなど、他職種で連携を図っています。	現状の生活からかけ離れたものではなく、より生活に根差した具体的な介護計画の作成に努めており、職員は介護の過程で入居者一人ひとりの小さな思い、変化を見逃さない努力が窺えます。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践は個別の生活記録に毎日記入しています。また、月に1回のミーティングにおいて利用者の状況把握、ケア方針の変更について意見交換を行っています。申し送りノートも活用し職員間での周知を徹底しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	運営推進会議で得られたご家族や地域のニーズにも対応できるよう、状況に応じて必要なサービスを行っていかうと考えています。今年の豪雨災害の際には福祉避難所として、一時的に地域の方の受け入れを行いました。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアにご協力いただき、敬老会や避難訓練などへの参加を通して日頃から交流を深める取り組みを行っています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にご本人及びご家族にかかりつけ医を確認し、入居後もかかりつけ医での治療が継続できる体制をとっています。受診は原則、ご家族対応ですが利用者の状況に応じてホームで送迎を行っています。	家族の協力を得ながら、受診対応がされています。歯科は往診があり口腔ケアに努めています。個々のかかりつけ医への、受診時は日々の様子を医師に伝え連携を図っています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当ホームに看護師の配置はありませんが、利用者の状況の変化や薬に関することはまず第一に電話にてかかりつけ医の看護師に相談して指示を仰いでいます。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には市内共通の情報提供書を用いて利用者の情報提供を行っています。また、入院時には週1回は必ず入院先の病院を訪問し、担当の相談員と退院の目途や治療状況について聞き取りを行っています。医療介護連携会議にも積極的に参加するよう心掛けています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在、終末期までの対応実績はなく利用者の状態に変化が見られる際には早急にご家族に報告・連絡を行っています。重度化した際にはご家族の希望に応じて老健や特養等への入居に向けての手続きがスムーズに進められるよう相談や助言を行っています。	現在はハード面で看取りを行っていませんが、どこまで今の現状で看れるのか本人、家族と職員とで共通認識を図っています。	重度化への対応、看取りをすることは大変だと思いますが、先進する高齢化社会対応に向けて勉強会等をして理解を深め取り組んでいかれる事を期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ホーム内で急変時や事故発生時の対応については研修を行っています。また、急変時の対応に備えてAEDの使用法等、全職員に周知しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回日中及び夜間を想定した火災訓練を地域住民と共に実施しています。また、運営推進会議を通して地域や行政の協力体制を確認しています。水害等の災害についてはマニュアルを作成し、見直しを行っているところです。	近所の地域の方とも、一緒に夜間想定で入居者も参加して行っています。福祉避難所としての役割も担っています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の大先輩でる利用者ひとりひとりを尊重した言動を心がけています。排泄の確認等に関しては、そっと声をかける等プライバシーの配慮を行っています。	言葉かけなど注意しながら、入居者一人ひとりの気持ちを尊重し穏やかな言葉かけと、職員の動きに思いが感じられました。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話の中に選択肢を設けて、会話を通して本人の希望や興味等の聞き取りを行っています。表出が困難な利用者に対しては、本人の表情をしっかりと観察しながら少しでも本人の思いが汲み取れるよう働きかけを行っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	レクリエーションの前には「今日は何をしようか?」と尋ね利用者の楽しめる活動に参加できる環境づくりを心がけています。また、昼食後の過ごし方も希望を聞き、それぞれ個人の大切な時間が過ごせるよう働きかけています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日に着る服を職員と一緒に選んだり、洗面台で鏡を見ながら身だしなみを整えて頂いています。昔からお化粧や毛染めをされている利用者はその心を大切に、入居後も継続できるよう働きかけています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居時に嗜好や食事形態、アレルギーについて細かい聞き取りを行い、その方の嫌いなものについては著しく低栄養にならないものであれば代替えの食材を提供しています。また、野菜の皮むき等の下ごしらえは役割の1つとして希望される利用者には参加して頂きます。	メニューも職員で考え、栄養のバランスも考慮した食事づくりがされていました。毎回入居者・職員共にテーブルを囲み、食事を楽しんでいました。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事量や水分摂取量は毎日記録に残しています。また、個人の咀嚼や嚥下状態に合わせて一口大にカットしたり、ミキサー食にするなど安全面と低栄養の予防に注意を払っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行っています。介助が必要な方については職員が義歯を外して洗浄を行い、夕食後には義歯洗浄剤に浸け口腔ケアを行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、排泄パターンの把握と必要な方には声掛けを行っています。重度化した利用者も可能な限りトイレで気持ちよく排泄できるよう職員が2人体制で介助するなどご本人の想いを大切にしています。	入居者の負担にならない様にまた自尊心を傷つけない様排泄方法を定め、一人ひとりに合わせた声掛け誘導で自立支援に努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防を目的に当ホームでは10時のおやつはヨーグルトを提供しています。腹部のマッサージを行うなど可能な限り自然な排便を心がけ、必要に応じて下剤の処方や変更など直接かかりつけの医師に相談しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	プライバシーにも配慮し、1人ずつ入浴を行っています。また、本人のタイミングに合わせて入浴の声掛けを行っています。お湯の温度にも配慮し、ひとりひとりが安全に気持ちよく入浴できるよう支援を行っています。	入浴が楽しくなる様に無理強いせず、入居者のタイミングに合わせて入浴支援に取り組んでいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は個々の習慣に合わせて休んで頂いています。また、冷暖房の調整などひとりひとりが心地よく眠られるよう室温にも配慮しています。日中も居室で自由に休んで頂いています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	病院からの処方薬は個人の薬袋で管理していません。服薬時には必ず2人の職員で確認を行い誤薬に注意を払っています。また、本人が飲み込むまで必ず見守りを行い、服薬状況に応じて薬の形態の変更を相談するなど薬剤師との連携を図っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の会話を通してバックグラウンドや興味等の聞き取りを行っています。また、家庭での役割が継続できるよう食器拭きや洗濯物たたみなど役割や生きがいの支援を行っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望に沿って、ホームの外を散歩する時間を設けています。また、地域のお祭りや行事に参加する等外出支援を心がけています。	ホームの裏にある畑に出たり、駐車場に出てご近所方とお話をしたり暮らしの中の一部と捉え、一人ひとりの状態(レベル)に合わせた対応を心掛けています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時に「預かり金」について家族に説明を行い、本人の希望があれば預かり金から支払いをする体制をとっています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じて家族や知人に電話をさせています。本人が電話をかけることができない場合には、職員が代行して電話をかけてお話しして頂いています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール内に利用者の作品を飾ったり、季節のお花を活着しています。特に冬場はトイレや脱場が寒くならないよう暖房を設置しています。また、デッキ側の窓からはホームの庭が眺められます。	季節感を取り入れた共用空間は、入居者が気持ちよく過ごせるように入居者同士の距離感を大切にしています。職員が間に入ったり、いい雰囲気の中で生活感のある明るい居場所づくりに努めています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールソファを設置し、ゆっくりくつろいで頂いたり、利用者同士交流が図れるよう配慮しています。また、天気の良い日には、デッキでお茶を飲んだり、のんびりベンチに座ってくつろいでおられる姿も見かけます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に居室への持ち込み物に関しては説明を行っています。家族の写真や思い出の品物を飾られ、思い思いのお部屋を作られています。	事業所の決まりは無く入居者と家族が自由に居室づくりを行って、なるべく今までの暮らしと違和感が出ない様に気を付けています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ひとりひとりの状況に合わせて安全面への配慮及び自立支援ができるよう家具の配置等に配慮しています。また、洗剤等の保管場所も随時検討し、安全な環境づくりに努めています。		